Pioneer

プラズマディスプレイシステム

PDP-502HD

設置マニュアル

このたびはパイオニア製品をお買い求めいただきありがとうございました。

- お使いになる前に、正しく安全にお使いいただくため、「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- 本機の機能を十分に発揮させてお使いいただくために、この取扱説明書を最後までお読みください。
- 本機の取扱説明書は「設置マニュアル」と「操作マニュアル」で構成しています。
- お読みになった後は、「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒にして大切に保管してください。

●省エネルギー設計製品

本機は電源オフ時（スタンバイ時）の消費電力を抑えた設計となっています。スタンバイ時の消費電力値は別冊の仕様（68 ページ）をご覧ください。

もくじ

このマニュアルでは主に設置や接続について説明しています。操作については別冊の「操作マニュアル」をご覧ください。

安全上のご注意

ご使用の前に、別冊操作マニュアルの「安全上のご注意」もよくお読みのうえ正しくお使いください。

安全に正しくお使いいただくために

図記号について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな図記号を使用しています。その記号と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。

⚠注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。

図記号の意味

△ 記号は注意（警告を含む）しなければならない内容です。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は、やってはいけない（禁止）内容です。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、必ず行っていただく（強制）内容です。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

異常時の処置

プラグを抜け

万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店またはアフターサービス連絡先に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

プラグを抜け

万一内部に水や異物等が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはアフターサービス連絡先にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

画面が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いて、修理を販売店またはアフターサービス連絡先にご依頼ください。

プラグを抜け

万一、本機を落としたり転倒させることにより、キャビネットあるいはパネルを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設　置

禁止

本機は大型で重量があるので、ぐらついた台や傾いた所などを避け安定した場所に置いてください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。本文をお読みになり、転倒防止の備えをしてください。
また、開梱や持ち運びは二人以上で行ってください。

禁止

電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重いものをのせてしまうことがあります。重いものをのせるとコードが傷ついて、火災・感電の原因となります。

⚠ 警告

使　用　環　境

本機の内部に水が入ったり、ぬらさないようご注意ください。屋外や風呂場など、水場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使　用　方　法

本機の上に花びん、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが痛んだら（芯線の露出、断線など）、販売店またはアフターサービス連絡先に交換をご依頼ください。

雷が鳴り出したらすぐに使用を中止して、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

本機のキャビネットを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店またはアフターサービス連絡先にご依頼ください。

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

ディスプレイの前面パネルに、たたくなどして衝撃を加えるとパネルが割れ、火災・けがの原因となります。前面パネルには絶対に衝撃を加えないでください。

⚠ 注意

設　置

放熱を良くするため他の機器・壁等から間隔をとってください（10 cm以上）。また、次のような使い方をしないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

・押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
・じゅうたんやふとんの上に置く。
・テーブルクロスなどをかける。
・横倒しにする。
・逆さまにする。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししたり、本機を操作しないでください。感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

禁止

本機の上にものを置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

本機を調理台や加湿器、エアコンの吹き出し口のそばなど高温、多湿になる場所あるいは油煙、およびほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

禁止

本機のディスプレイは質量が約46kg（スタンドを含む）あり、奥行がなくて不安定なため、開梱や持ち運び、および設置は2人以上で行ってください。

注意

移動させる場合は主電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部のコード、転倒防止具を外したことを確認してください。コード類を外さずに移動するとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

プラグを抜け

窓を閉め切った自動車の中や、直射日光が当たる場所、エアコン・ヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。熱による変形や、本機内部の部品に悪影響を与え、火災の原因となることがあります。

禁止

アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

・送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
・BS、CS放送受信用アンテナは強風を受けやすいので、しっかりと取りつけてください。

注意

例えば、5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください、内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

注意

お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

プラグを抜け

ディスプレイはガラス部品を使用しています。万一部品が割れた際には、破片でけがなどをしないよう取扱いに注意し、販売店またはアフターサービス連絡先に修理をご依頼ください。

注意

ディスプレイを直射日光が当たる場所に長期間置かないでください。前面保護パネルの光学特性が変化し、変色したり、そりの原因となります。

注意

ディスプレイ背面にある通気孔は、1ヵ月に1回を目安に掃除機でホコリを吸い取ってください（このとき掃除機は「弱」に設定してください）。また、通気孔のお手入れは必ず本機の主電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ホコリをためたまま使用すると内部の温度が上昇し、故障や火災の原因となります。

注意

使　用　環　境

周囲温度は０～４０℃の範囲内でご使用ください。

注意

長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

プラグを抜け

本機を冷え切った状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりしますと、動作部に露が生じ（結露）、本機の性能を十分に発揮できなくなるばかりでなく、故障の原因となることがあります。このような場合はよく乾燥するまで放置するか、徐々に室温を上げてからご使用ください。

注意

静止画像等、同じ絵がらを長時間連続で表示しないでください。画像が焼きつき残像として残る場合があります。

注意

使　用　方　法

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

確実に差す

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

禁止

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

禁止

ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

注意

長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電　池

指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災やけが、あるいは周囲を汚す原因となることがあります。

禁止

電池は加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池をリモコン内にセットする場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災やけが、あるいは周囲を汚す原因となることがあります。

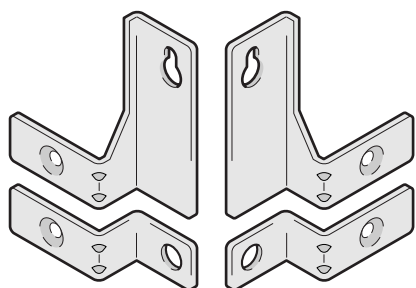
注意

長時間使用しない時は、リモコンから電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災やけがが、あるいは周囲を汚す原因となることがあります。

電池を取出せ

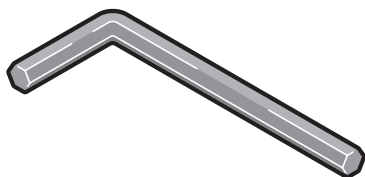
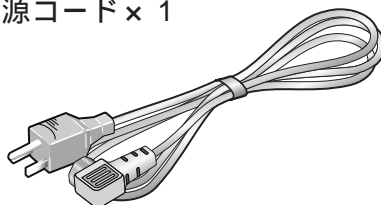
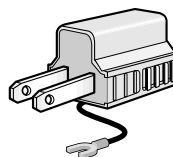
もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。また万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

付属品の確認

付属品は 3 つの梱包箱に分けて入っています
各々の箱の中のものを確認してください

スピーカー部	ディスプレイ部

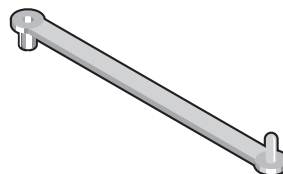
■ スピーカー取付金具

■ スピーカー取付ネジ類

■ 取付工具× 1
（六角レンチ）

■ 電源コード× 1

■ AC 変換プラグ× 1

■ 転倒防止用のボルト× 2

■ ワイピングクロス
(前面パネルを拭く布)× 1

■ スピードクランプ× 2

■ ビーズバンド× 2

■ 保証書

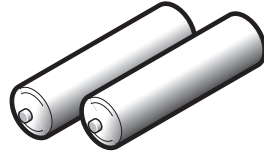
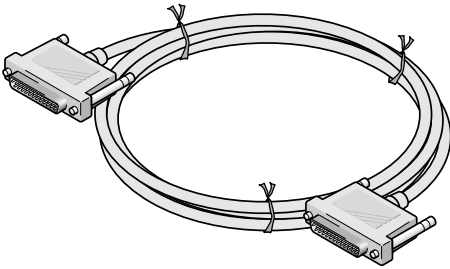
メディアレシーバー部

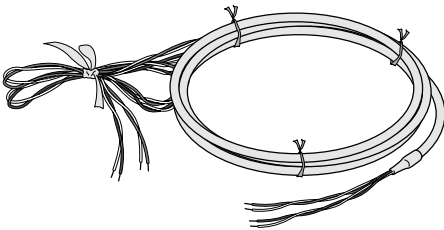
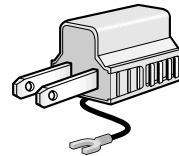
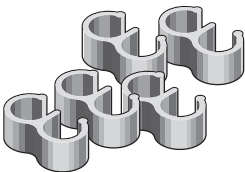
■ リモコン× 1

■ システムケーブル× 1

■ スピーカーケーブル× 1

■ ケーブルバインダー× 5

■ 単 3 乾電池（2 本）

■ 取扱説明書（2 冊）
・操作マニュアル
・設置マニュアル

■ ご相談窓口・修理窓口のご案内

■ AC 変換プラグ× 1

設置のしかた

設置は次の手順でおこなってください

1 置く場所を決める

直射日光が当たらない、風通しの良い場所を選んでください。

ディスプレイとメディアレシーバーをむすぶシステムケーブルの長さは約 3m です。

2 製品を配置する

ディスプレイを置く

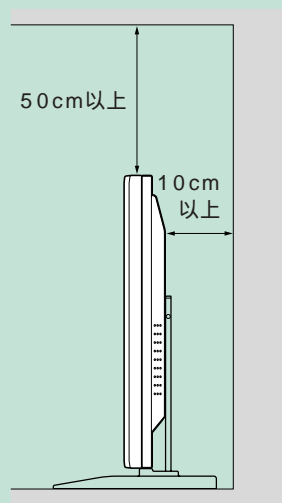
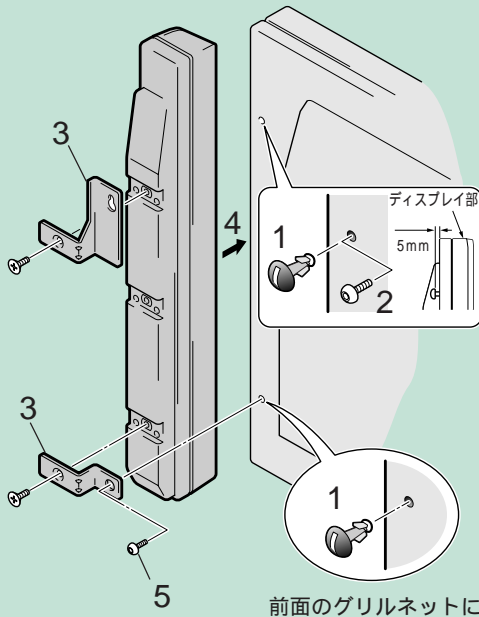
ディスプレイ部は重いので（約46kg）、動かす場合は二人以上で行ってください。

メディアレシーバーを置く

メディアレシーバーの上には物を乗せないでください。
乗せると通風が妨げられ、故障の原因となります。

ディスプレイのスタンドは外さないでください。

> 取外しは取付の専門業者がおこないます。専用の壁掛金具やスタンドを使う以外は、付属のディスプレイスタンドは外さないでください。

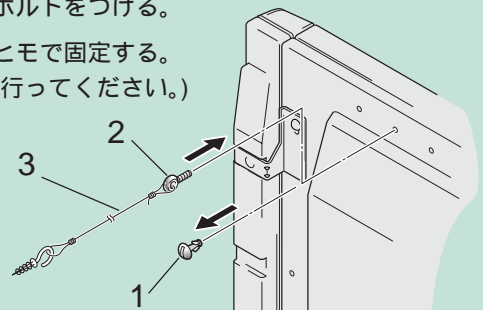
背面部の風通しをよくするために、天面部及び背面部は空間をとって設置してください。

3 スピーカーを取り付ける

1. ホールリベット (上と下の 2 つ) を外す。(ホールリベットはコインなどを使って回して外します。)
2. スピーカーをひっかけるために、あらかじめ上のネジを取り付ける。
このとき 5mm 程のすき間が残るようにします。
3. 取付金具をスピーカーに付ける。
4. スピーカーをディスプレイの上のネジにひっかける。
(遊びがありますので、下のネジをかり止めします。)
5. すき間がないように位置を調整して上下のネジをきちんと止めます。

前面のグリルネットに力を加えたり、指等を差し込んだりしないでください。

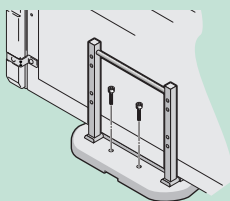
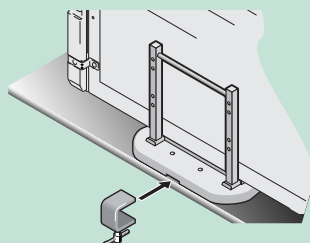
注意

スピーカーを取り付ける際に、付属以外のネジを使用するとスピーカーの脱落や故障の原因となります。スピーカーの取り付けには必ず付属のネジを使用してください。
スピーカーを取り付けた後で、ディスプレイを動かす場合には、スピーカー部分を持たないでください。ディスプレイの下部を持って移動するようにしてください。

4 転倒防止の備えをする

1. ディスプレイの裏側の上にあるホールリベットを外す。
2. 付属の転倒防止用のボルトをつける。
3. 壁または柱に丈夫なヒモで固定する。
(同様にして反対側も行ってください。)

ヒモ及びフックは市販のものをお使いください。

このようなやり方もあります

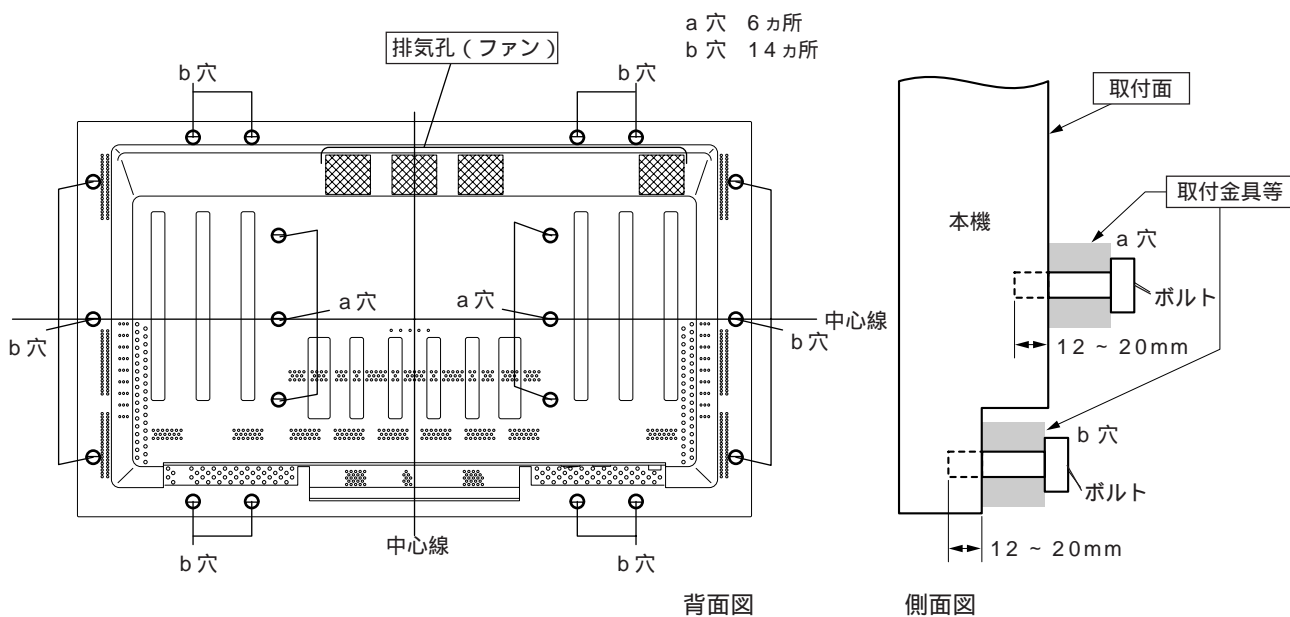
市販のネジを使って止める

市販のクランパーを使って止める

設置についてのご注意

別売のスタンドなどを使用して設置する場合は下記の点に注意してください。

1. 当社別売のスタンドや金具等を使用する場合

- 設置は販売店等に依頼してください。
- 必ず添付のボルトを使用してください。
- 詳細はスタンド等の取扱説明書をお読みください。

2. 上記 1 以外の場合

- 販売店にご相談ください。
- 使用できる取付け穴は下図のとおりです。（キャップ、ボルトはコイン等で回せば外れます。）

⚠ **必ず中心線に対して上下左右対称な 4 ヵ所以上を使用してください。**

⚠ **ボルトは本機の取付け面より a 穴、b 穴ともに 12 ～ 20mm 本機内に入るものを使用してください。（上図　側面図参照）**

⚠ **裏面に開いている通風孔、排気孔はふさがないようにしてください。**
また、排気孔からは温風が排出されますので、背面の壁などの変質や汚れにご注意ください。

⚠ **本機はガラスを使用しておりますので、必ず歪みのない面に取付けてください。**

設置用部品はなるべく当社製品をご使用ください。
当社製品以外の部品による場合の事故損傷については当社は一切責任を負いません。

壁掛け設置をする際には、必ず専用の金具を使用してください。また、設置・据え付けは工事専門業者に依頼してください。

壁掛け設置をする際の注意事項

1. 設置場所について
   - 人が容易にぶら下がったり、寄りかかったりできる場所には設置しないでください。
   - 屋外や温泉など湿気の多い場所、水辺の近くには設置しないでください。
   - 振動や衝撃の加わるような場所には設置しないでください。
   - 壁の構造や強度により取り付けできない場合がありますので工事専門業者、または販売店にご相談ください。
   - 画面中央部の高さが、1m以下になるように設置してください。

2. 異常や不具合が発見された場合には、速やかに販売店または工事専門業者に修理を依頼してください。

3. 壁掛けの設置金具や壁面の取り付け部など、目につかない所が破損し、本機が落下する危険が生じる恐れがありますので、本機の点検修理時や内装工事の時などに、必ず工事専門業者、または販売店に点検を依頼してください。本機を壁掛け設置する際には、工事専門業者に点検を依頼し、問題のないことをお確かめください。

4. 本機を壁掛け設置して長期間使用されると、環境によっては経年変化で取り付け部などの強度が不足する恐れがあります。定期的に工事専門業者に点検を依頼し、問題のないことをお確かめください。

壁掛け設置をされたお客様へ

当社製の壁掛けユニットは、工事専門業者により安全な設置・据え付けが行われることを前提として発売されています。壁掛け設置をされているお客様は以下のことをお守りください。

1. 壁掛けに設置されているプラズマディスプレイ（本機）には、ぶら下がったり力を加えたりしないでください。

2. 壁掛けに設置されているプラズマディスプレイ（本機）や壁掛けユニットには、物をぶらさげたりしないでください。

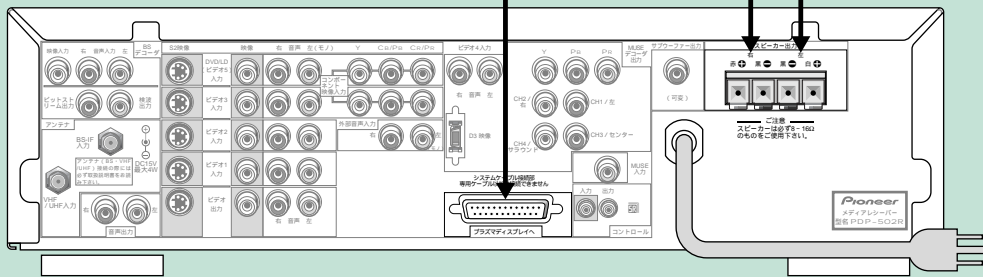
3. 地震が起きた場合には、壁掛けに設置されているプラズマディスプレイ（本機）や壁掛けユニットの落下・転倒など万一の場合に備え、本機や壁掛けユニットから離れてください。

4. 壁掛け設置の際には、地震などの災害や万一の場合に備え、二重の落下防止策（チェーンなどでの固定）を、工事専門業者にご依頼ください。

この次は配線です。
「システムのつなぎかた（基本接続）」
をご覧ください。

システムのつなぎかた（基本接続）

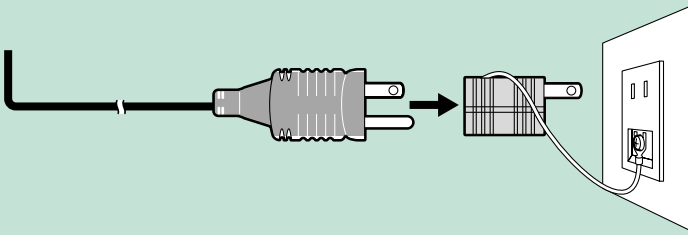
メディアレシーバー、ディスプレイ、スピーカーの接続をします
次の手順でおこなってください

1 システムケーブルとスピーカーケーブルをメディアレシーバーにつなぐ

2 システムケーブルとスピーカーケーブルをディスプレイ側につなぐ

100V 以外使用禁止

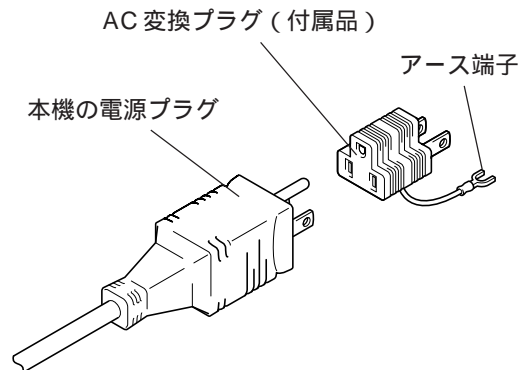
表示された電源電圧 (交流100ボルト) 以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

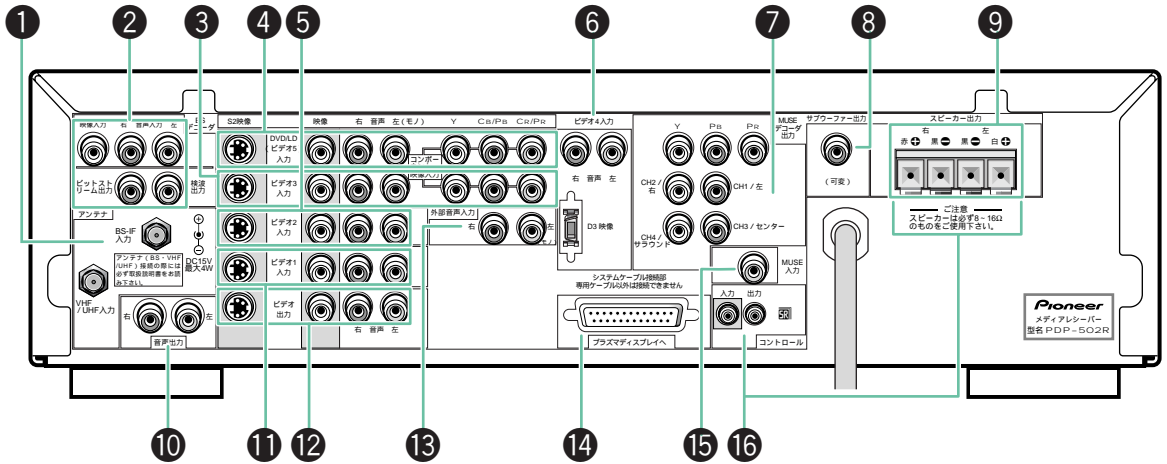
3 メディアレシーバーとディスプレイの電源プラグをコンセントに差し込む

必要に応じて付属の変換プラグを使います。

電源コードは、必ず付属のものをご使用ください。
アース端子のはさみ込みにご注意ください。

AC 変換プラグご使用上の注意

本機の電源プラグは3芯プラグになっています。性能維持のため、機器のアースは接続してお使いください。

アース端子がある2芯コンセントの場合は付属のAC変換プラグを付けてお使いください。コンセントが2芯専用でアース端子がない場合は、アース工事が必要ですので専門業者に工事をご依頼ください。
また、コンセントが3芯用の場合は、そのままお使いください。

各部の名前

接続端子

❶ アンテナ入力端子

BS アンテナ線と VHF/UHF のアンテナ線をつなぎます。

❷ BS デコーダ入出力端子

BS デコーダをつなぎます。

❸ ビデオ 3 入力端子

DVDプレーヤーなど、コンポーネント映像出力やハイビジョン映像出力を持った機器をつなぎます。

❹ DVD/LD（ビデオ 5）入力端子

DVDプレーヤーなど、コンポーネント映像出力やハイビジョン映像出力を持った機器をつなぎます。

❺ ビデオ 2 入力端子

ビデオデッキやコンポーネント映像出力端子のないDVD LDプレーヤー、デジタルCSチューナーなどをつなぎます。

❻ ビデオ 4 入力端子

デジタル BS 放送やデジタル地上波放送に対応したチューナーなどをつなぎます。（1999 年 6 月現在、BSと地上波のデジタル放送は行われておりません。）

❼ MUSE デコーダ出力端子

ハイビジョン用のビデオデッキをつなぎます。

❽ サブウーファー出力端子

アンプ内蔵のサブウーファーをつなぎます。

❾ スピーカー出力端子

スピーカー（右、左）をつなぎます。

❿ 音声出力端子

AV ステレオアンプなどにつなぎます。（別冊 60 ページをご覧ください。）

⓫ ビデオ 1 入力端子

ふつうのビデオデッキにつなぎます。

⓬ ビデオ出力端子

ふつうのビデオデッキにつなぎます。
（ビデオ 1 に入力された信号は出力されません。）

⓭ 外部音声入力端子

AV ステレオアンプなどをつなぎます。（別冊 60 ページをご覧ください。）

⓮ システムケーブル接続端子

ディスプレイをつなぎます。

⓯ MUSE 入力端子

ハイビジョン LD プレーヤーをつなぎます。

⓰ コントロール入出力端子

36 ページをご覧ください。

テレビ放送を見るためのつなぎかた

色々な放送を見るためには以下のような機器や準備が必要です

放　送	用意する機器
VHF/UHF 放送	VHF/UHF アンテナ
BS 放送	BS アンテナ
BS 有料放送（WOWOW など）	BS アンテナ＋ BS デコーダ
BS ハイビジョン放送	BS アンテナ
CATV 有料放送	CATV 放送会社の 設置工事＋ホームターミナル
デジタル CS 放送	CS アンテナ＋デジタル CS チューナー（デコーダ）
デジタル BS 放送	BS アンテナ＋デジタル BS 放送対応チューナー
デジタル地上波放送	デジタル放送に対応したアンテナ＋デジタル放送対応チューナー

1999年6月現在

- アンテナまたは CATV はマンションなどの共同設備を利用できる場合があります。
- CATVの受信はサービスの行われている地域のみ可能です。
- 1999 年 6 月現在、BS と地上波のデジタル放送は行われておりません。

リモコンを使った設定があります

BS アンテナをつないだときや、BS デコーダ（WOWOW デコーダ）をつないだあとでは、リモコンを使って設定しなければならないことがあります。
その場合、主電源を入れスタンバイ状態にしないとリモコンが使えません。
スタンバイ状態にする方法は、別冊の 9 ページをご覧ください。

VHF/UHF アンテナをつなぐ

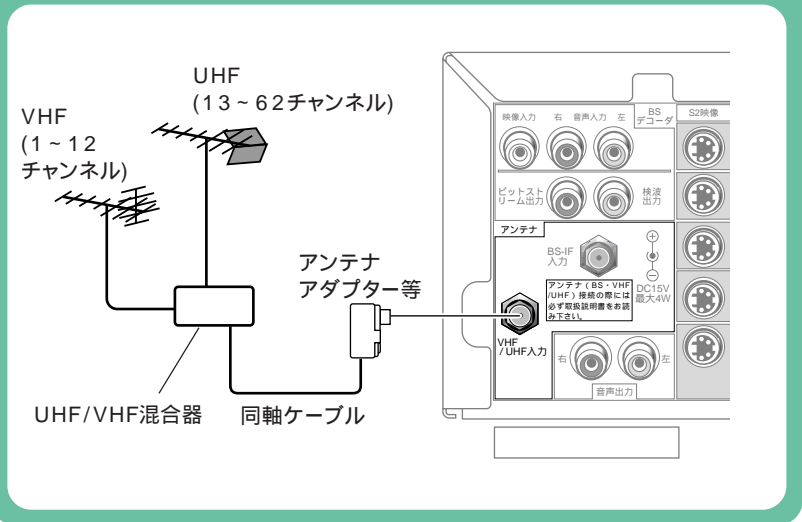
アンテナの接続は、ご家庭のアンテナ線の種類によって異なります。以下に２つの代表例を示します。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。

注意

アンテナを建てるときは専門の業者へ

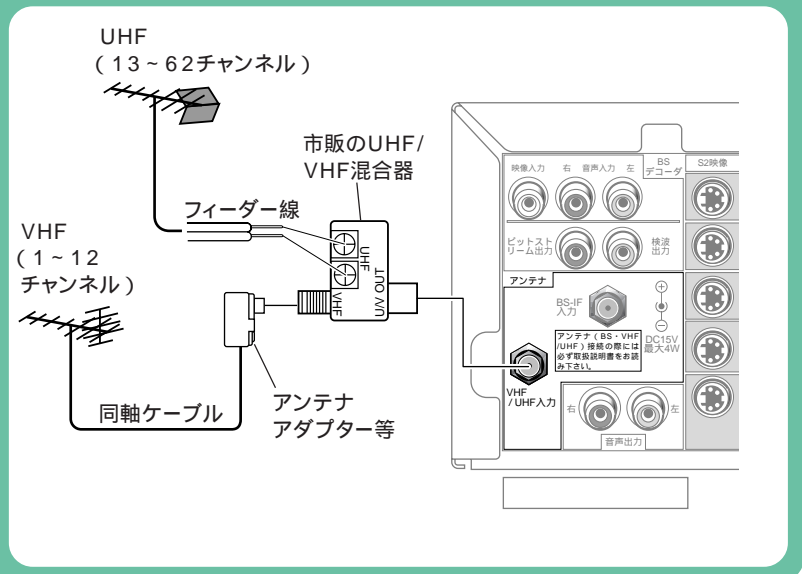
アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、お買い求めの販売店にご相談ください。

- 送配電線から離れた場所に設置してください。
  アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

アンテナ線が VHF/UHF 混合の場合

ひとこと

- アンテナアダプターやＦ型プラグがついていない場合は、アンテナアダプターを取付けます。
- UHF/VHF混合器を使用される場合に、電波の受信状態が悪くなり、画面に縞もようがでることがあります。この場合はケーブルなどを使用して、混合器をできるだけ本機から離して接続してください。

アンテナ線が VHF と UHF で分かれている場合

UHF
(13〜62チャンネル)
市販のUHF/
VHF混合器
フィーダー線
VHF
(1〜12
チャンネル)
UHF
VHF
U/V OUT
同軸ケーブル
アンテナ
アダプター等

BS アンテナをつなぐ

注意

アンテナを建てるときは専門の業者へ
アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、お買い求めの販売店にご相談ください。BS 放送受信アンテナは強風の影響を受けやすいので、堅固に取り付け・設置してください。

BS アンテナを設置するときは

- アンテナの向きを正確に合わせる必要がありますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

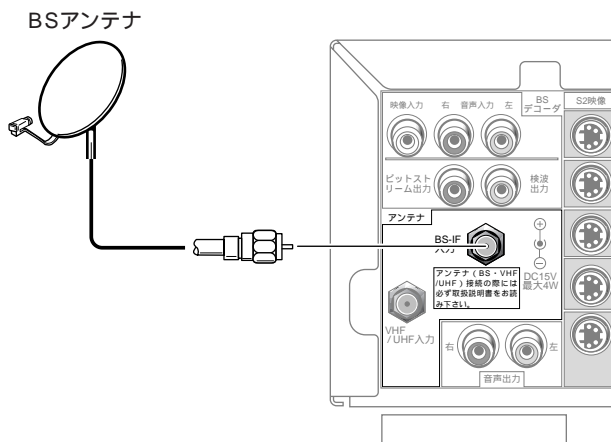
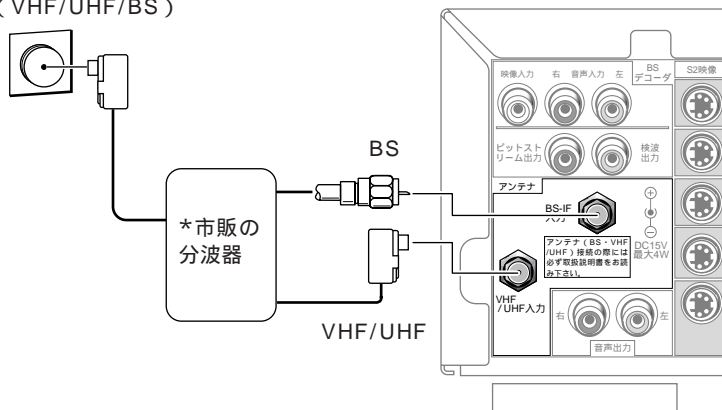
ひとこと

設置したあとは「BS アンテナの設定」（20 ページ）をご覧ください。

ひとこと

マンションの設備、器材によって、アンテナの設定が異なる場合があります。詳しい内容は、アンテナ工事の業者にご確認ください。

- 分波器を使用されると、電波の受信状態が悪くなり、画面に縞もようがでることがあります。この場合は、ケーブルなどを使用して、分波器をできるだけ本機から離して接続してください。

個人で受信する場合

共同受信設備を利用して受信する場合
（マンションなど）

BS アンテナの設定

BS 放送を見るために、必要に応じて次のような設定の変更を行ってください。
- BS アンテナ電源の設定
- BS デコーダの動作設定（23 ページ）

設定はリモコンで行います。本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっていることを確認してから行ってください。（詳しくは別冊 9 ページ）

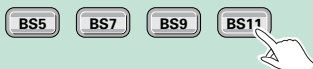
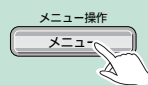
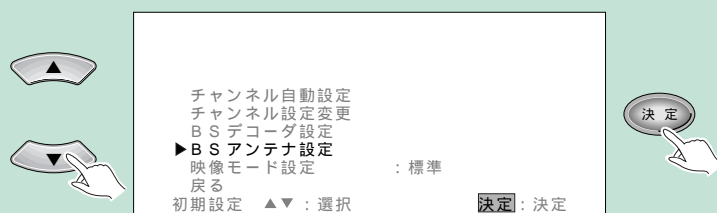
BS アンテナ電源の設定

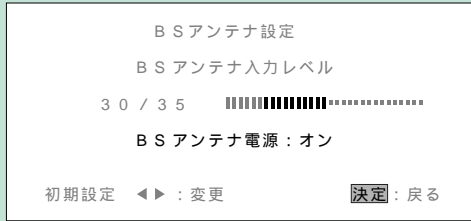
- BS アンテナは、電源を供給しないと、使用できません。この設定でアンテナ電源をオンにしてください。
- 共同受信設備（マンションなど）の場合はアンテナ電源の設定は「オフ」にしてください。（お買い上げ時は「オフ」に設定されています。）

6 「BS アンテナ電源」を「オン」に設定する

BＳアンテナ設定

BＳアンテナ入力レベル

30／35

BＳアンテナ電源：オン

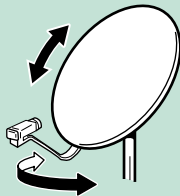
初期設定　◀▶：変更　決定：戻る

(画面表示の例では、BS アンテナ入力レベルは 30 です。)

BS アンテナ電源の設定を「オン」にしたときは、次の場合に BS アンテナに電源が供給されます。

1. BS チャンネルを見ているとき
2. BS 録画設定を「オン」にしているとき（別冊 56 ページ）

“ BSアンテナがショートしていますので、BSアンテナ電源の設定をオフにしました。” の表示が出ましたら、BS アンテナのケーブルが正しく接続されているか確認してください。（19 ページ）

7 BS アンテナの向きを調整する

BS放送をよりよく受信するために、アンテナの向きを調整してください。
BSアンテナ入力レベルの表示を見ながらBSアンテナの向きを上下、左右に調整します。

レベルが最大になるところで、
BS アンテナをしっかり固定します。

調整が終わったら

8 設定が終わったら、「メニュー」を押して通常画面に戻す

ひとこと

BS アンテナの設定画面では、次の内容を表示しています。

30／35

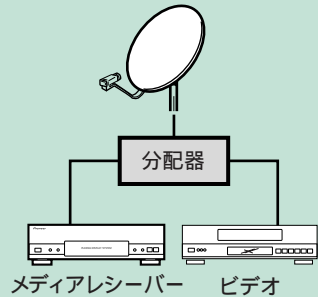
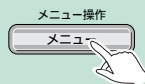
現在のアンテナ入力レベルのバーグラフ表示

●調整した中での最大値（例）
（アンテナの向き調整をした場合、それまで調整した中でのアンテナ入力レベルの最大値が表示されます。）

●現在のアンテナ入力レベル（例）

アンテナ入力レベルは、入力信号のレベルによって表示が変化します。BSアンテナの向きを調整する際には、現在のアンテナ入力レベルの数値が調整した中での最大値と同じになるか、できるだけ最大値に近づくように調整します。

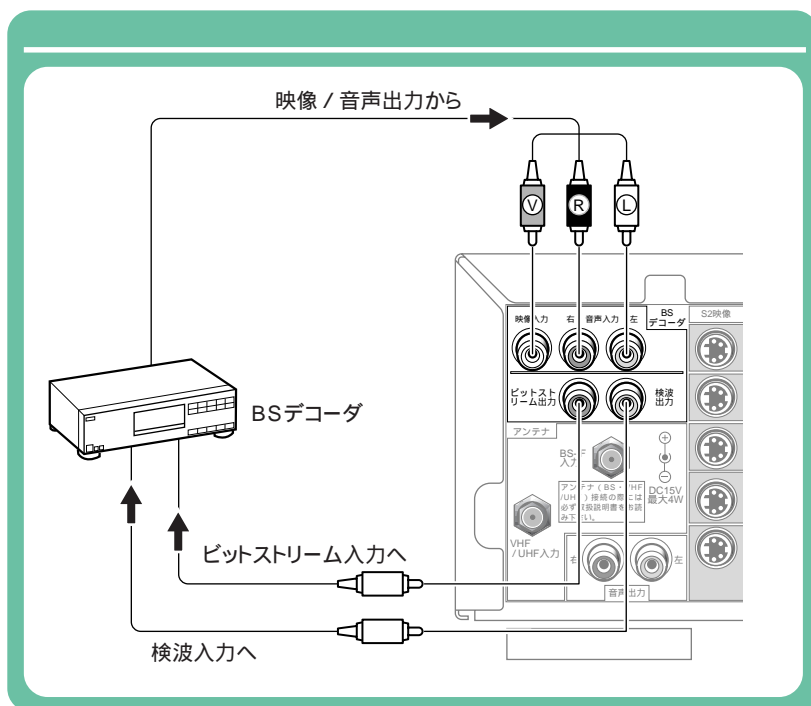
ひとつのBSアンテナに2台以上のBS機器を使う場合の分配器は、全端子DC15V通過型の分配器をお使いください。

メディアレシーバー　ビデオ

BS デコーダをつなぐ

BSの有料放送（WOWOW/セント・ギガ（St.GIGA)など）を見る場合は、スクランブルを解除するために、デコーダの接続と、放送会社との受信契約が必要な他、次ページ以降の BS デコーダの設定をします。

WOWOW/St.GIGA の場合

① 放送会社と受信契約をして、BS デコーダを用意します。（セント・ギガ(St.GIGA)は、WOWOW とは別に受信契約が必要です。）
② BS デコーダを下図のとおり本機に接続します。

詳しい内容は BS デコーダの取扱説明書をご覧ください。
BS デコーダの映像／音声出力端子は、必ず本機の BS デコーダ入力端子に接続してください。

WOWOW 放送は、有料放送として放送内容をスクランブル（放送内容をそのままでは見られないようにかきまぜた状態）処理しています。放送を見るには JSB 放送会社との受信契約を行い、スクランブルを正常な状態に戻す B S デコーダを用意してください。セント・ギガ（St.GIGA）は音声だけの独立した放送です。ご契約されていないと、音声を聞くことはできません。JSB放送会社とは別に受信契約を行ってください。
WOWOW、セント・ギガ（St.GIGA）は、BS5 チャンネルで放送されています。（1999 年 6 月現在）

BS デコーダの設定

BS デコーダの動作設定をする

- BS 有料放送のチャンネル（WOWOW、St.GIGA）で、スクランブル解除のために BS デコーダを経由するかどうかの設定をします。
- 設定はリモコンで行います。本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっていることを確認してから行ってください。（詳しくは、別冊 9 ページ）

ここでは BS 5 チャンネルのデコーダ設定を " デコーダ自動 " にする場合を説明します。

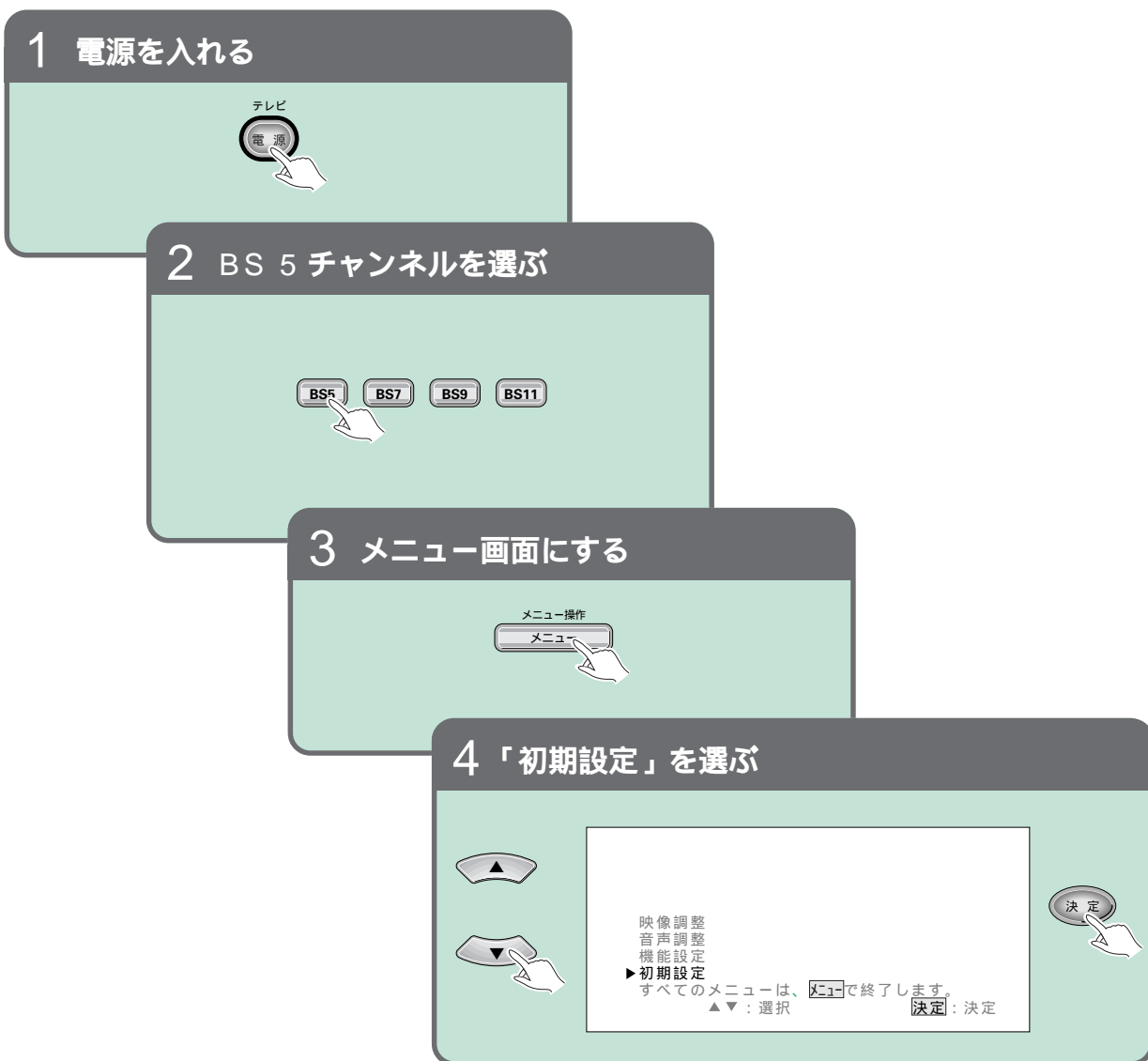
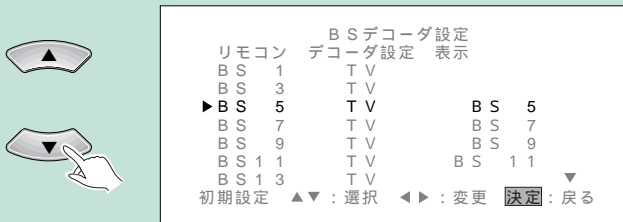
5 「BS デコーダ設定」を選ぶ

チャンネル自動設定
チャンネル設定変更
▶ＢＳデコーダ設定
ＢＳアンテナ設定
映像モード設定　　　　：標準
戻る
初期設定　▲▼：選択　　　決定：決定

6 「リモコン」の列で BS 5 チャンネルを選ぶ

ＢＳデコーダ設定

リモコン	デコーダ設定	表示
ＢＳ　１	ＴＶ	□□□□□□
ＢＳ　３	ＴＶ	□□□□□□
▶ＢＳ　５	ＴＶ	□□ＢＳ□５
ＢＳ　７	ＴＶ	□□ＢＳ□７
ＢＳ　９	ＴＶ	□□ＢＳ□９
ＢＳ１１	ＴＶ	□ＢＳ□１１
ＢＳ１３	ＴＶ	□□□□□□　▼

初期設定　▲▼：選択　◀▶：変更　決定：戻る

7 「デコーダ設定」の列でデコーダ自動を選ぶ

工場出荷時には「TV」になっています。

ＢＳデコーダ設定

リモコン	デコーダ設定	表示
ＢＳ　１	ＴＶ	□□□□□□
ＢＳ　３	ＴＶ	□□□□□□
▶ＢＳ　５	デコーダ自動	□□ＢＳ□５
ＢＳ　７	ＴＶ	□□ＢＳ□７
ＢＳ　９	ＴＶ	□□ＢＳ□９
ＢＳ１１	ＴＶ	□ＢＳ□１１
ＢＳ１３	ＴＶ	□□□□□□　▼

初期設定　▲▼：選択　◀▶：変更　決定：戻る

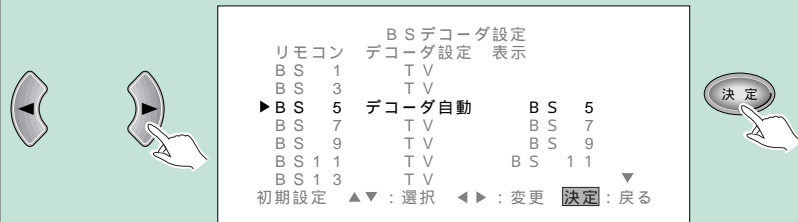
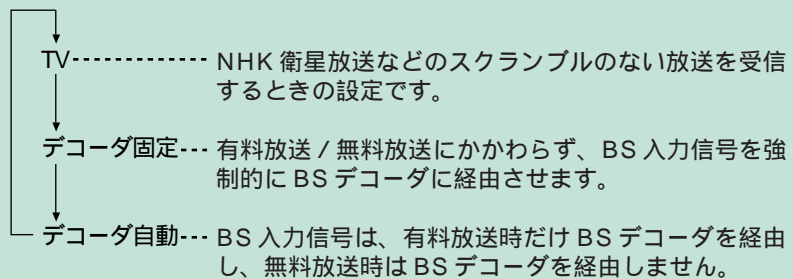
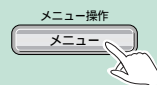
下図のように切り換わります。

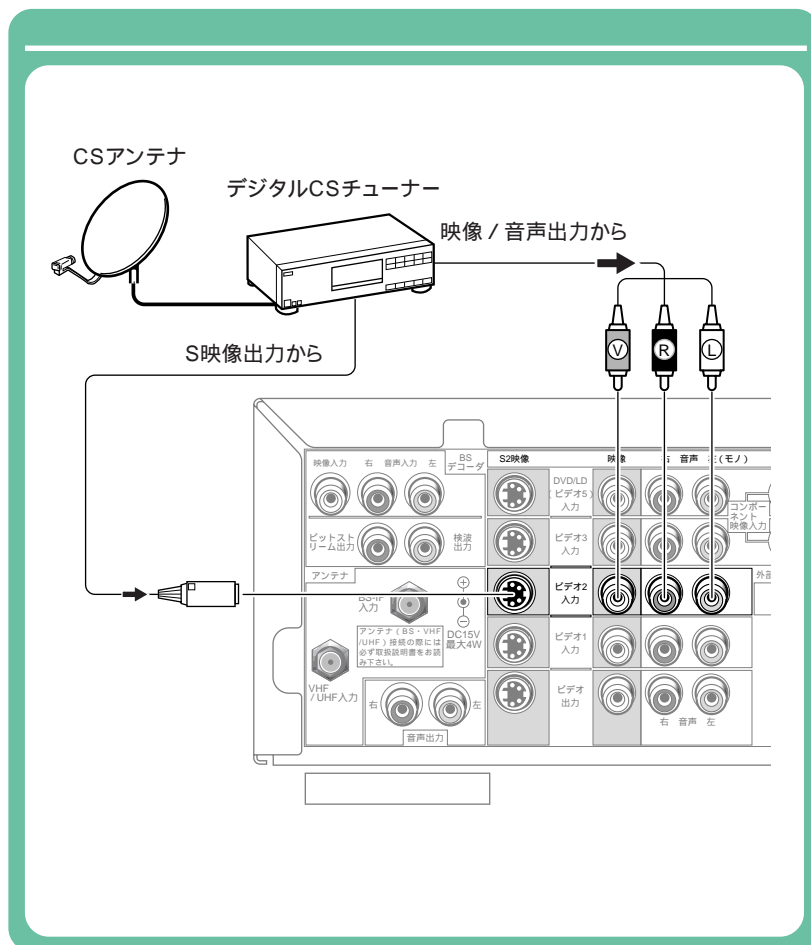
TV-------------- NHK 衛星放送などのスクランブルのない放送を受信するときの設定です。

デコーダ固定--- 有料放送／無料放送にかかわらず、BS 入力信号を強制的に BS デコーダに経由させます。

デコーダ自動--- BS 入力信号は、有料放送時だけ BS デコーダを経由し、無料放送時は BS デコーダを経由しません。

8 設定が終わったら、「メニュー」を押して通常画面に戻す

メニュー操作
メニュー

デジタル CS チューナーをつなぐ

デジタル CS チューナーは以下のようにつなぎます

CS チャンネルの切り換えは、デジタル CS チューナー側で行ってください。

ビデオ 2 入力をお使いになる場合は、MUSE サブ入力を「オフ」に設定してあることを確認してください。（31 ページ）

いろいろな機器を見るためのつなぎかた

リモコンを使った設定があります

いろいろな機器をつなぐときには、必ず電源を切ってから行ってください。つないだあとには、リモコンを使って設定しなければならないことがあります。
その場合、主電源を入れ、スタンバイ状態にしないとリモコンが使えません。
スタンバイ状態にする方法は、別冊の 9 ページをご覧ください。

つないだ機器	必要になる設定	参照ページ
BS アンテナ	BS アンテナ電源	20 ～ 21
ハイビジョン LD	MUSE サブ入力	31 ～ 32
	EFM 音声	32 ～ 33
DVD やハイビジョン用ビデオデッキをコンポーネント映像入力端子につないだとき	コンポーネント映像設定	37 ～ 38

すべてつなぎ終わると …

このマニュアルどおりにつないだ後、リモコンを使っていろいろな機器を選ぶことができます。

リモコンのカバーを外した状態で示しています。

1. DVD LD プレーヤー

2. ふつうのビデオデッキ

3. その他の AV 機器

4. ハイビジョン用ビデオデッキ

5. デジタル放送対応チューナー
（1999年6月現在、BS と地上波のデジタル放送は行われておりません。）

6. ハイビジョン LD プレーヤー

7. フロントパネルにつないだ機器（ビデオカメラ、ゲーム機など）

このマニュアルでは、代表例としていろいろな機器のつなぎかたを示していますが、機器の組み合わせによっては接続する端子の組み替えが可能です。

デジタル BS チューナーをつなぐ

接続は必ず電源を切ってから…

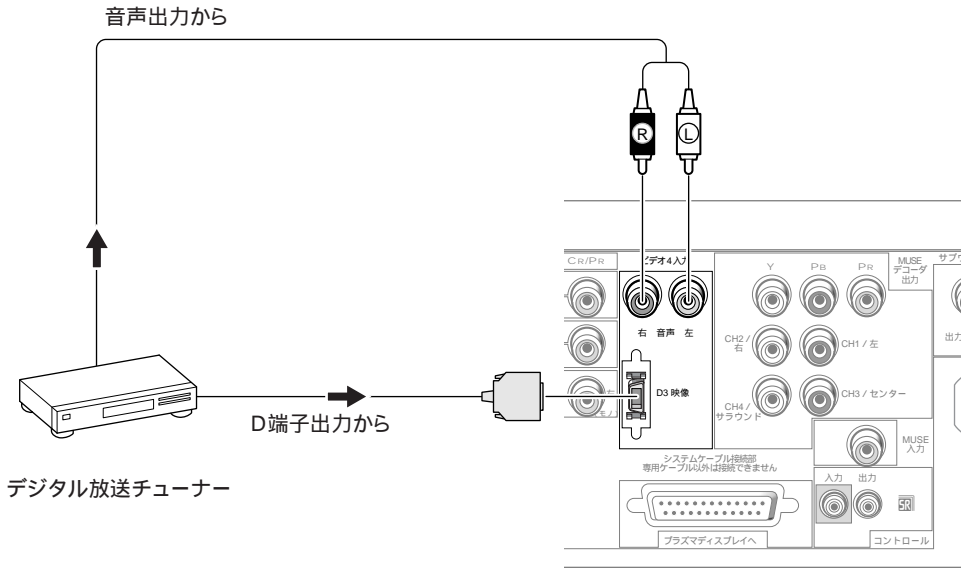
音声出力から

R L

右 音声 左

D3 映像

D端子出力から

デジタル放送チューナー

ビデオ 3、ビデオ 4、DVD/LD（ビデオ 5）入力端子は、デジタル BS 放送受信機から出力される 480i、480p、1080i に対応しています。

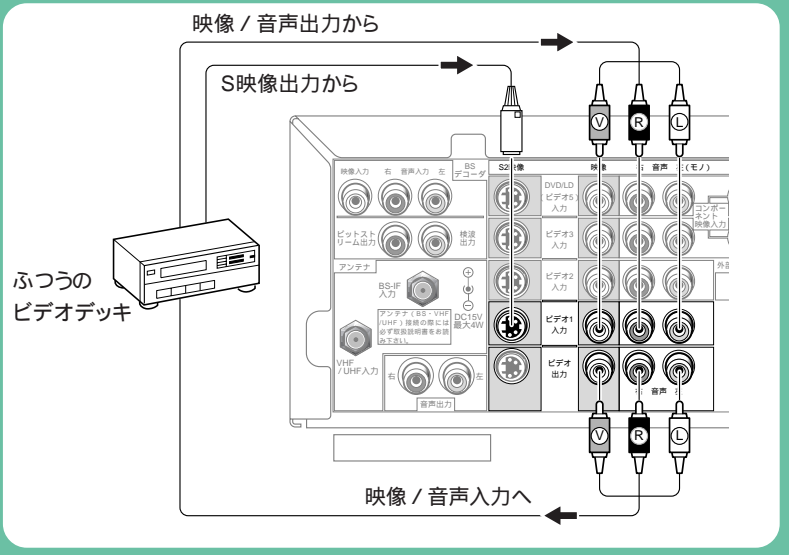
ビデオデッキをつなぐ場合
ビデオ出力端子に接続したビデオは、必ずビデオ１入力端子にビデオの出力を接続してください。

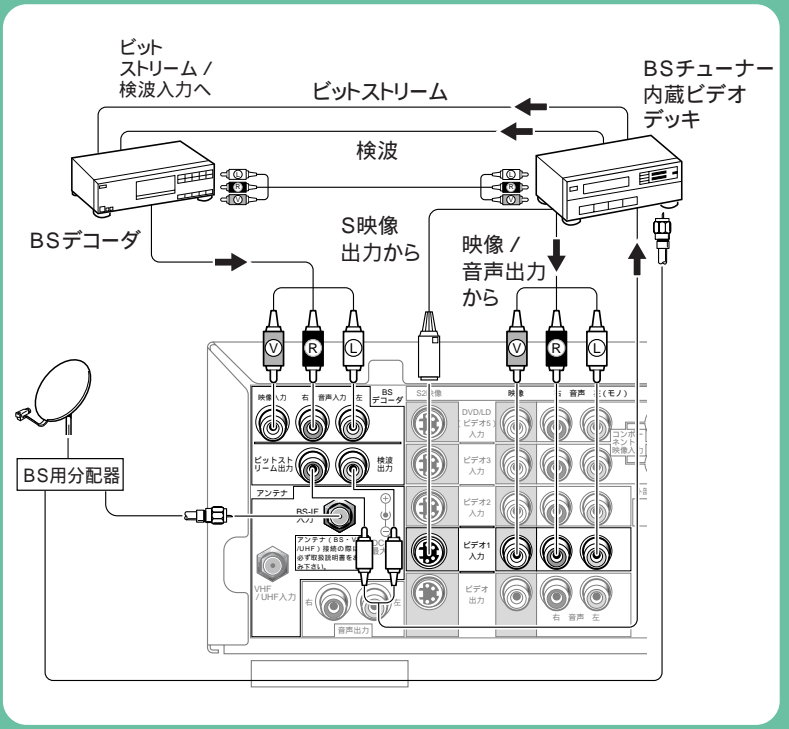
S２映像出力について
S２映像出力は、テレビ・BS放送（ハイビジョン放送は除く）では出力されません。
ハイビジョン放送を録画される場合は、S２映像出力を使用すると、より良い画質で録画できます。
S２映像入力端子と映像入力端子に同時に接続すると、S２映像入力端子が優先されます。

BSデコーダをビデオデッキに接続する場合
ビデオデッキによっては、本機に接続できないものもあります。詳しい接続のしかたや操作方法は、ビデオデッキとBSデコーダの取扱説明書をご覧ください。また、BS用分配器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
BS録画設定を「オン」にしたときは、設定したBSチャンネルが優先になります。

BS用分配器は全端子DC通過型をご使用ください。（21ページ）

ふつうのビデオデッキをつなぐ

接続は必ず電源を切ってから…

BSチューナー内蔵のビデオデッキをつなぐ

接続は必ず電源を切ってから…

S2 映像入力端子と映像入力端子に同時に接続すると、S2 映像入力端子が優先されます。

DVD/LD プレーヤーで、コンポーネント入力をしているとき DVD 再生画像が正常に表示されない場合は、リモコンの表示ボタンを押して " コンポーネント映像 " が選択されているか確認してください。コンポーネント映像が選択されていないときは、次のコンポーネント映像入力の設定を行ってください。

1. メニューボタンを押す
2. 初期設定を選ぶ
3. コンポーネント入力設定を選ぶ
4. 設定を「自動」、もしくは「固定」に変更する

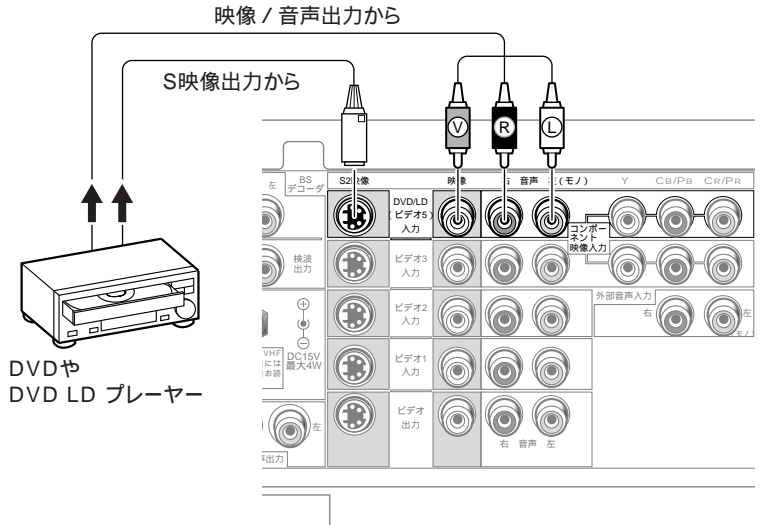
コンポーネント入力設定には3つのモードがあります。

オフ：コンポーネント入力が選択されません。
固定：常にコンポーネント入力が選択されます。
自動：コンポーネント入力があるときのみ選択されます。

ビデオ 3、ビデオ 4、DVD/LD（ビデオ 5）入力のコンポーネント映像入力端子は、入力信号として、480i、480p、1080iに対応しています。

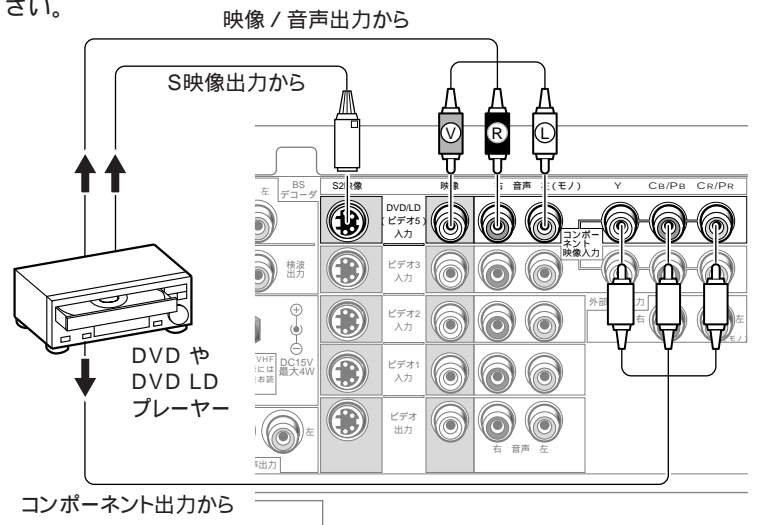
DVD や DVD LD プレーヤーをつなぐ

コンポーネント映像出力端子が無い場合のつなぎかた

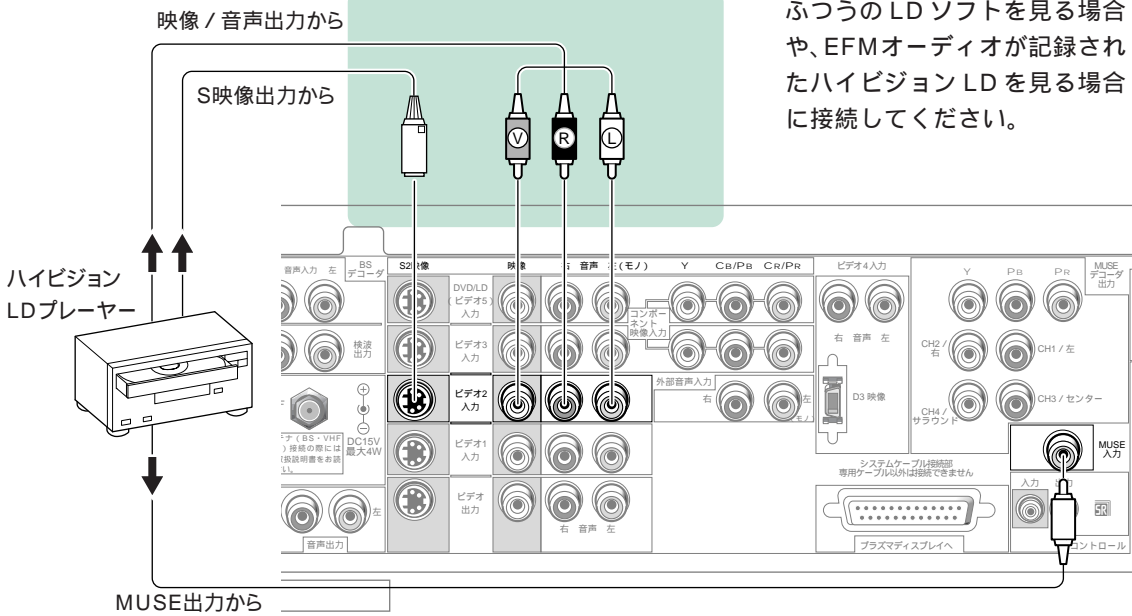
接続は必ず電源を切ってから…

DVD や DVD LD プレーヤーをつなぐ

コンポーネント映像出力端子が有る場合のつなぎかた

接続は必ず電源を切ってから…

このつなぎかたをした時には、37ページの、接続後の設定をしてください。

ハイビジョン LD プレーヤーをつなぐ

接続は必ず電源を切ってから…

ふつうの LD ソフトを見る場合や、EFMオーディオが記録されたハイビジョン LD を見る場合に接続してください。

S2 映像入力端子と映像入力端子に同時に接続すると、S2 映像入力端子が優先されます。

EFMオーディオの記録されたハイビジョンLDを再生する場合は、オーディオ出力端子から EFM オーディオが出力されます。
ハイビジョンLD プレーヤーの V、L、R の出力は必ずメディアレシーバーのビデオ 2 入力につないでください。

EFM はエイト・トゥ・フォーティーン・モジュレーションの略で、CD フォーマットのデジタル音声です。

ハイビジョンLDプレーヤーを接続した場合の設定

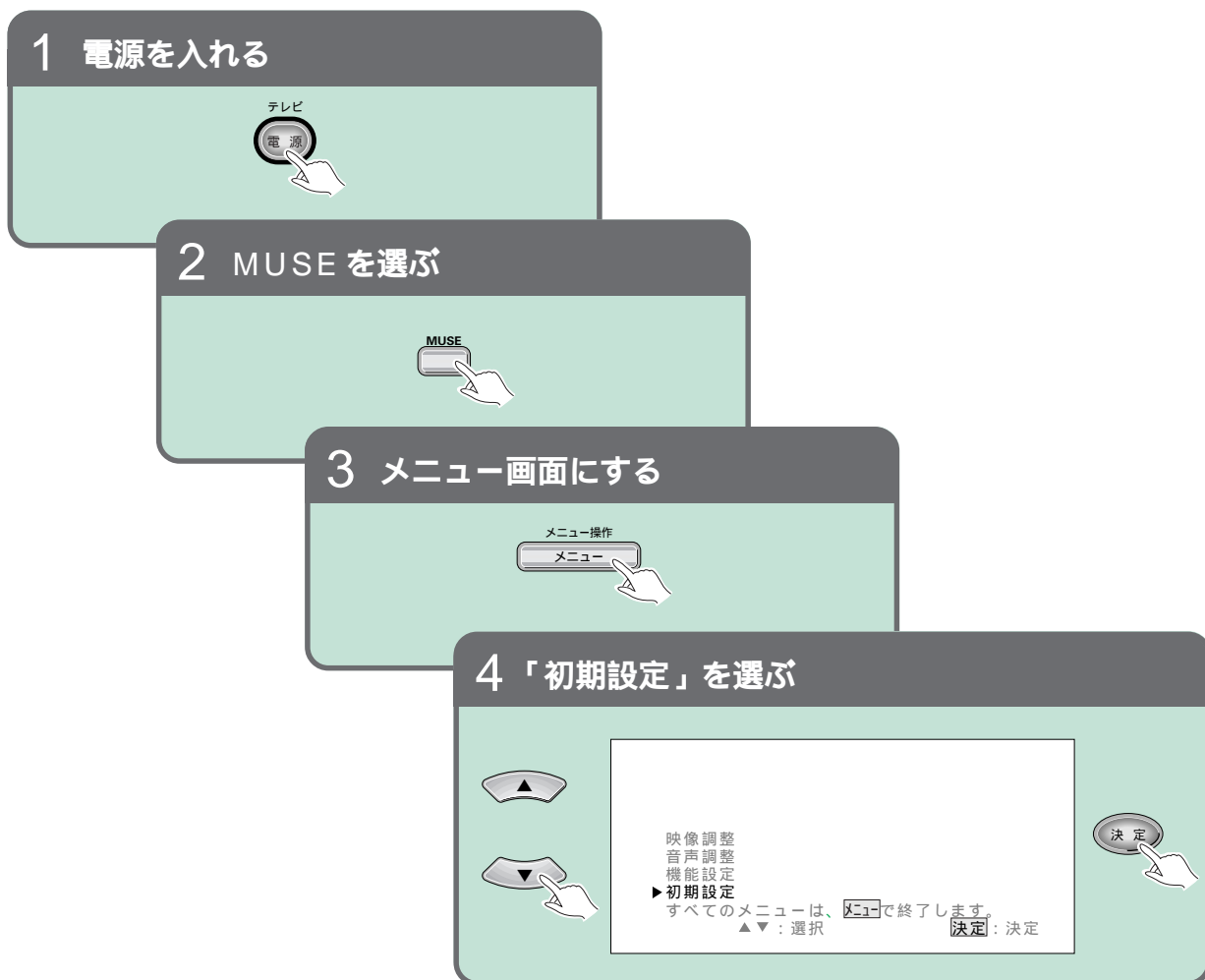
この設定は、ハイビジョンLDプレーヤーを本機のビデオ2入力端子に接続した場合に行います。
設定は2つあります。

1．MUSEサブ入力を設定する

- 設定はリモコンで行います。本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっていることを確認してから行ってください。（詳しくは、別冊9ページ）
- ハイビジョンLDプレーヤーは、ハイビジョンLDとふつうのLDの両方が再生できるコンパチブル機器です。

ハイビジョンLDプレーヤー
（2種類のLDソフトが再生できます。）
- ハイビジョンLDソフト ..... MUSE方式
- ふつうのLDソフト .... NTSC方式

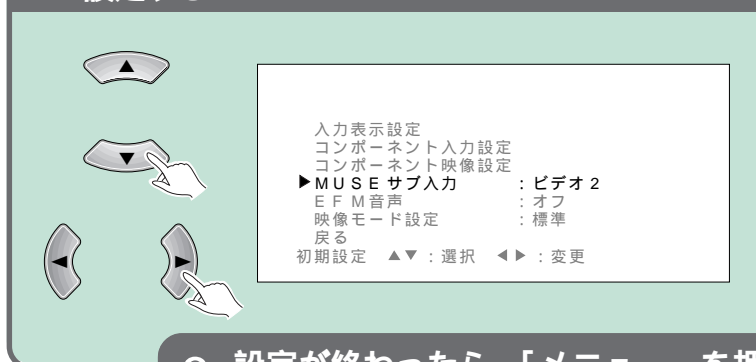
- ハイビジョン放送をBS録画設定「オン」にすると、MUSE入力は選択できません。（詳しくは別冊56ページ）

MUSEサブ入力の設定をビデオ2にすると、ハイビジョンLDプレーヤーでMUSE方式のLDやNTSC方式のLDを再生する場合に、本機が自動的にディスクを判別し、映像と音声の入力設定を切り換えるので、入力の切換操作をする必要がありません。

5 「MUSE サブ入力」を選び、「ビデオ 2」に設定する

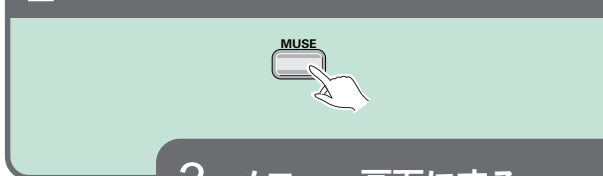
入力表示設定
コンポーネント入力設定
コンポーネント映像設定
▶MUSE サブ入力　：ビデオ 2
EFM 音声　：オフ
映像モード設定　：標準
戻る
初期設定　▲▼：選択　◀▶：変更

6 設定が終わったら、「メニュー」を押して通常画面に戻す

メニュー操作
メニュー

ご注意

お使いのハイビジョン LD プレーヤーの機種によっては、MUSE サブ入力の切り換えがうまくいかない場合があります。その場合には、MUSE サブ入力をビデオ 2 に設定しないでお使いください。

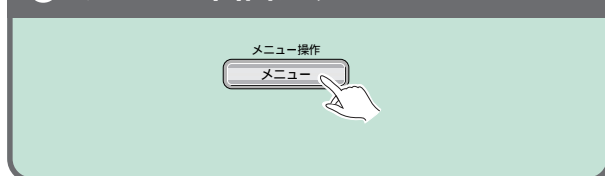
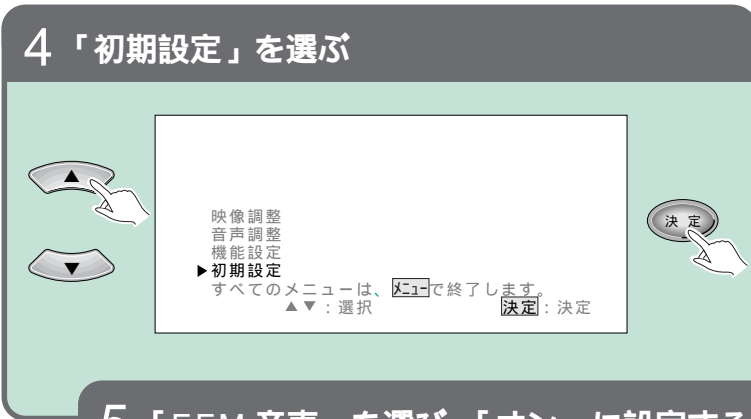
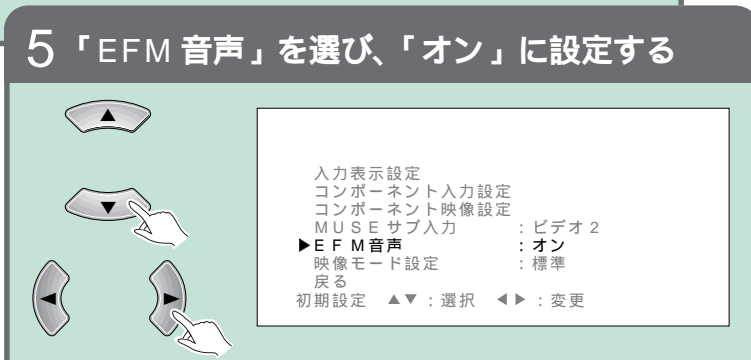
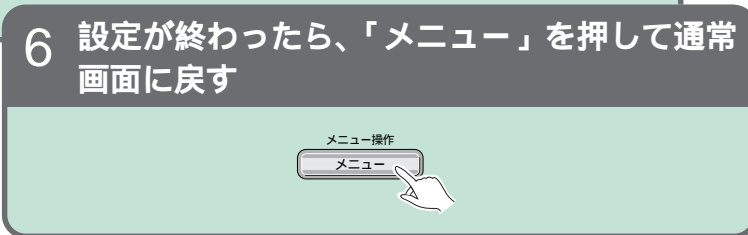
2. 便利な機能 EFM 音声

この設定をオンにすると、ハイビジョン LD プレーヤーで EFM 音声対応の LD ソフトを再生する場合に、本機が音声入力の切り換えを行います。EFM 音声の設定をするときは、先に MUSE サブ入力の設定をビデオ 2 にしてください。
EFM 音声対応の LD ソフトをご覧になる場合、お好みによって EFM 音声の設定を切り換えてご使用ください。

4 「初期設定」を選ぶ

映像調整
音声調整
機能設定
▶初期設定
すべてのメニューは、メニューで終了します。
▲▼：選択　決定：決定

決 定

5 「EFM 音声」を選び、「オン」に設定する

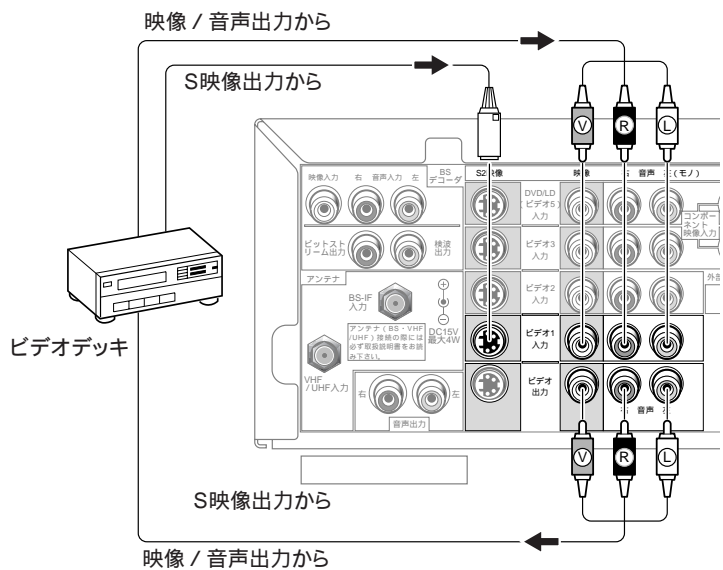
入力表示設定
コンポーネント入力設定
コンポーネント映像設定
ＭＵＳＥサブ入力　：ビデオ２
▶ＥＦＭ音声　：オン
映像モード設定　：標準
戻る
初期設定　▲▼：選択　◀▶：変更

6 設定が終わったら、「メニュー」を押して通常画面に戻す

ハイビジョンLDプレーヤーを接続し、MUSEサブ入力やEFM音声の設定をした場合、映像や音声がビデオ２入力に切り換わるので、ビデオ２入力は選択できません。

EFM はエイト・トゥ・フォーティーン・モジュレーションの略 (CD フォーマットのデジタル音声)。EFM 音声の記録されたLDソフトを再生する場合は、オーディオ出力端子から音声信号が得られる（MUSE 出力端子では得られません）ので本機への接続はビデオ２入力端子を使います。

BS ハイビジョン放送を録画するためのつなぎかた

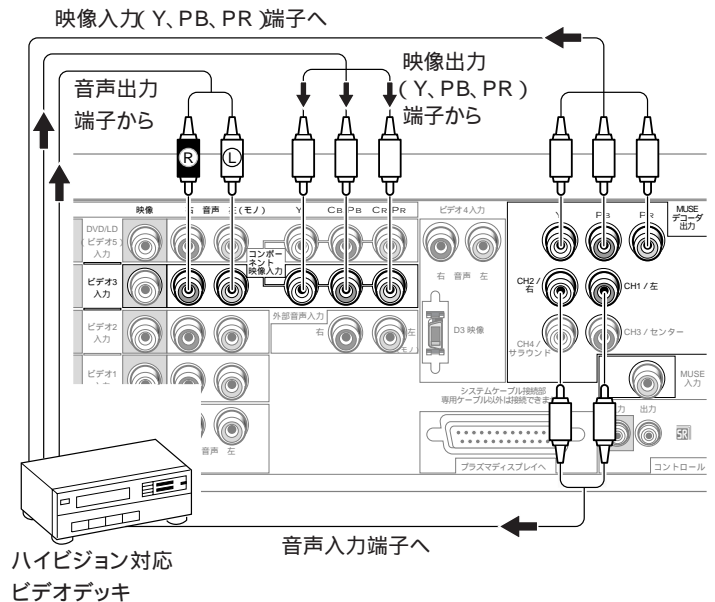
BS ハイビジョン放送を録画するには、次の 2 通りのやりかたがあります。

ビデオデッキをつなぐ場合
ビデオ出力端子に接続したビデオは、必ずビデオ 1 入力端子にビデオの出力を接続してください。

S2 映像出力について
S2映像出力は、テレビ・BS放送（ハイビジョン放送は除く）では出力されません。
ハイビジョン放送を録画される場合は、S2 映像出力を使用すると、より良い画質で録画できます。
S2 映像入力端子と映像入力端子に同時に接続すると、S2 映像入力端子が優先されます。

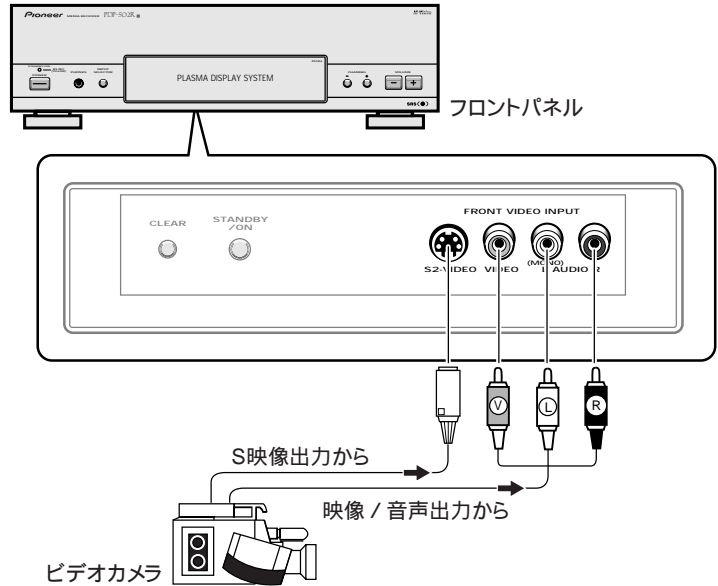
1　ふつうのビデオデッキで録画する

ハイビジョン用ビデオデッキの音声入力端子がL、Rのみの時は、MUSE 音声の設定を「ミックス」にしてください。（別冊 36 ページ）

2　ハイビジョン用のビデオデッキで録画する

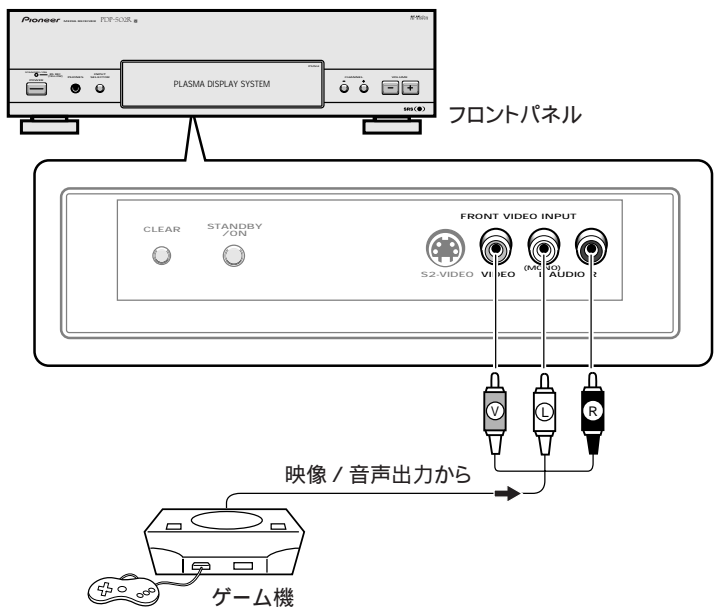
このつなぎかたをした時には、37ページの、接続後の設定をしてください。

ビデオカメラやゲーム機をつなぐ

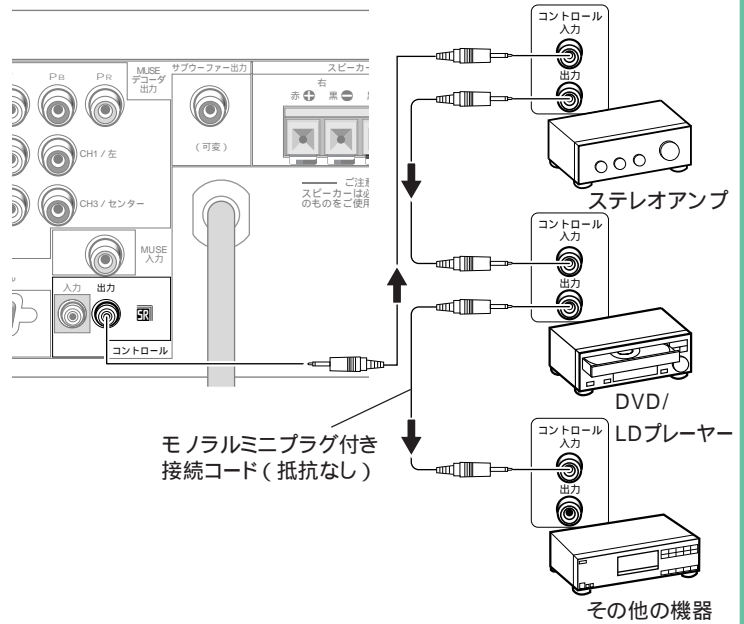
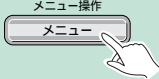
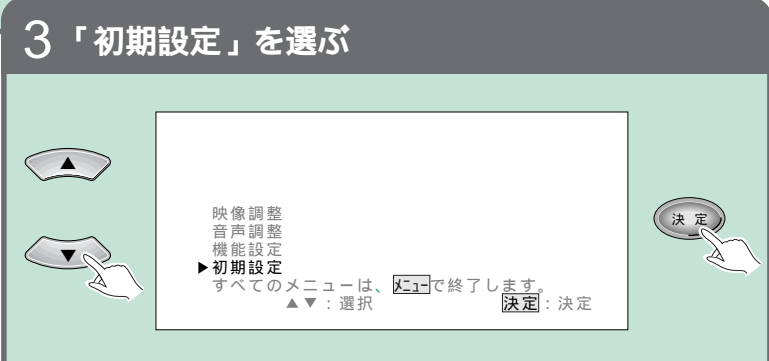
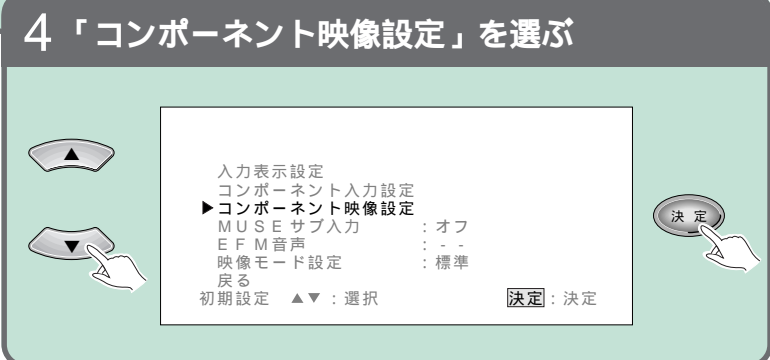
ビデオカメラ、ポータブルビデオレコーダー、ゲーム機などは、前面部のビデオ（フロント）端子に接続すると便利です。

ビデオカメラなどをつなぐ

接続は必ず電源を切ってから…

モノラル音声のビデオカメラやゲーム機を使用する場合は、音声-左（L）端子に差し込みます。左右のスピーカーから聞くことができます（モノラル）。

ゲーム機をつなぐ

接続は必ず電源を切ってから…

コントロールコードをつなぐ

パイオニア SR マークのついた AV 機器のリモコン操作を、本機のリモコン受光部で行えます。

各機器の映像、音声信号の接続を先に終了させてください。
コントロール入力端子にプラグを差し込むと、その機器のリモコン受光部は受け付けなくなります。

コンポーネント映像入力端子に機器をつないだ場合の設定

この設定は、ビデオ３入力端子、ビデオ４入力端子、またはDVD/LD（ビデオ５）入力端子にあるコンポーネント映像入力端子と、「D3映像端子」に機器をつないだ場合に行います。ここで設定できる映像信号は、480i、480p方式の信号のみです。

コンポーネント映像設定を行う

いろいろな機器を見るためのつなぎかた

5 コンポーネント 1 かコンポーネント 2 のどちらかに設定する。

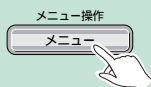
下の表を参照して自然な色あいになるように設定します。

（例）コンポーネント映像設定：コンポーネント 2

```
コンポーネント映像設定
ＤＶＤ／ＬＤ

▶４８０ｉ　　　　　　：コンポーネント２
　４８０ｐ　　　　　　：コンポーネント１
　戻る
初期設定　▲▼：選択　◀▶：変更
```

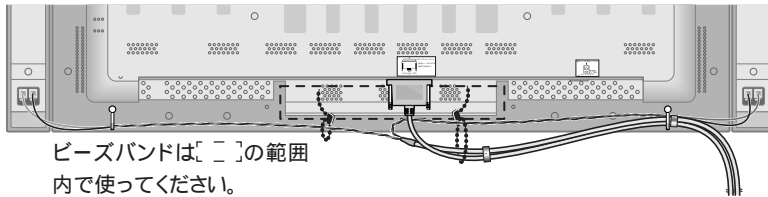
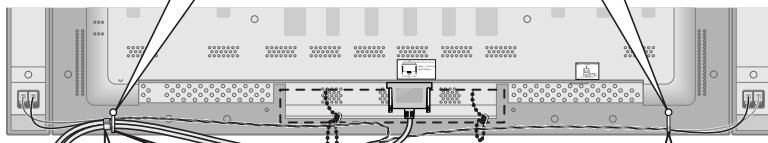
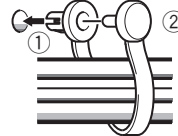
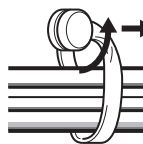
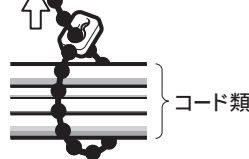
設定 / つないだ機器	コンポーネント映像設定
DVD プレーヤーなどのコンポーネント映像出力をつないだ時	コンポーネント 2
ハイビジョン方式のコンポーネント映像信号をつないだ時	コンポーネント 1

設定が終わったら「メニュー」を押して、終了します。

接続したケーブルを処理する

本機には、ディスプレイにつないだケーブルをたばねるためにスピードクランプが付属しています。
すべての接続が終わったら、以下の手順でケーブルの処理をしてください。

1 つないだケーブルを付属のスピードクランプを使って止める。

⚠ **スピードクランプは一度付けると簡単には外れにくいため注意して取り付けてください。**

2 分かれているケーブルをまとめて、付属のビーズバンドでたばねる。

※ ディスプレイを裏側から見ています。

高調波ガイドライン適合品

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

© 1999　パイオニア株式会社　禁無断転載
パイオニア株式会社　〒153-8654　東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<ARA1310-A>